

ポスト 2020 生物多様性フレームワーク採択のプロセスに対する公開書簡

下記団体を代表して

CBD Alliance (CBDA) / Women's Caucus / Global Youth Biodiversity Network (GYBN)

この公開書簡は、現在進行中の第 24 回科学技術補助機関会合 (SBSTTA24) に向けたポスト 2020 生物多様性フレームワーク (以下 GBF) 関連の文書草案ピアレビューに対して、COVID-19 パンデミックの状況を考慮すべきであることが書かれています。

ポスト 2020GBF 草案の内容について市民社会は継続して取り組んでいきますが、この書簡は内容について論じるものではありません。

提言・提案概要

- 私たちは、生物多様性条約(CBD)と条約機関に対し、COVID-19 パンデミックに対する最も適切な対処方法について緊急の回答を要求します。現在進められているパンデミックからの経済回復に向けた国内外の戦略は、生態系や社会的な再生について配慮されず脅威となっており、明らかに妨げになる可能性を含んでいます。包括的で公平なプロセスを通じて、深い考察と長期的な視野を盛り込み、この新しい現実における緊急課題を反映したものとして、ポスト 2020GBF の内容とプロセスを再考、再構築しなければなりません。
- CBD 管轄の下で実施されるバーチャルまたはオンラインでのプロセスは、グローバル・サウス (グローバルな支配下にある「南」という地理的概念ではなく、搾取・疎外・周辺化を経験しているあらゆる被支配集団や被支配に抵抗する諸集団・政治的アクターを意味する社会的概念) と権利保有者の現状、ニーズ、優先事項を考慮に入れるべきです。これらの会議は、標準的な手順に則り、国連公用語の 6 言語全てで実施され、文書提供されなければなりません。
- ピアレビュープロセスにおいて、私たちは、最新のゴール、マイルストーン、ターゲットに対するコメントを許可すべきであると主張します。これらは、モニタリングの要素、指標、ベースラインデータに関連した議論を行うより前になされるべきです。

COVID-19 パンデミックは生物多様性の問題に直結している

2 月にローマで開催されたポスト 2020 年 GBF に関する公開作業部会 (OEWG2) 以来、私たちは今、前例のない規模、そして危険性を持つパンデミックの真只中にいます。パンデミックとその対応によって、国や民族間におけるひどい不平等さと不公平さが露呈しました。特に先住民族や地域コミュニティ (IPLCs)、小規模な食料生産者、移民労働者、女性、子ども、その他多くの社会的に疎外されたグループに深刻な影響を与えています。増え続ける不平等さと不公平さに対処し、さらなる破壊から自然を守ることが、絶対的に必要であることをパンデミックは強く示しています。また生物多様性の損失、持続不可能な生産と消費の根本的・構造的原因に対処するためには、体系的な変化が必要であることを明確に示しています。

国連による最新の報告書『Preventing the Next Pandemic』<UNEP (国連環境計画) と ILRI (国際家畜研究所) による報告書>は、人獣共通感染症の出現、進化、蔓延を引き起こしている要因が、生物多様性と森

林の破壊、気候変動、持続不可能な農法、自然と野生生物の搾取・収用などにあることを示唆しています。この要因に対し、CBD が優先課題として対処することが急務となっています。CBD の条項や COP での決議による締約国の政策への実装は、これらの問題に対処する上でおおいに役立つでしょう。

ニューノーマル（構造的変化）を踏まえた方向修正の必要性

CBD は3つの目的（保全、持続可能な利用、遺伝子資源の公正かつ公平な利益配分）を持っており、パンデミックがもたらした多くの問題に対応できる独自の立場を有しています。CBD は緊急かつ正確に行動しなければなりません。

現在、注目の集まっているポスト 2020GBF は、生物多様性を持つ生態系を大切にするコミュニティとともに、国際社会が持続可能で変革的な方法によって復興するための独自の機会を提供しています。特に自然、動物、人々の健康と福祉を中心に据え、権利と正義を確保しつつ、将来起こりうるショックやパンデミックからも守ることができる生物多様性枠組を提供する機会を持っています。

私たち市民社会は、ポスト 2020GBF の交渉に誠意を持って参加してきており、今後も参加していくつもりです。しかし、これらの交渉は、パンデミック以前の世界であるかのように継続することはできませんし、継続してもなりません。

内容と進行プロセスに関して、私たちは、方向を修正するために、再検討、再戦略化、再構成し、緊急かつ包括的で公平な協議と議論を要求します。現時点で SBSTTA 24 と SBI 3（第3回条約実施補助機関会合）においてポスト 2020 年 GBF の重要な議論をするためには、今の準備だけでは不十分です。

バーチャルプロセスの不十分さと不公平さ

数多くの政府、特に現在パンデミックが加速しているグローバル・サウスでは、死者数の増加とコミュニティの弱体化、医療システムの崩壊と伝統的医療の喪失、経済的サバイバルに圧倒されています。政治的混乱と暴力の中、いたるところで人々は生計と基本的な生活必需品を得るのに苦しんでいます。

このような状況を考えると、パンデミック以前の世界と同じような期限設定に基づく運用では、人々の完全かつ持続的なタイムテーブルへの参加を期待することは非現実的です。

オンライン対応への転換は避けられませんが、特にグローバル・サウスにおいて、技術へのアクセスや、安定した十分なインターネット接続に対処し、説明責任を負うべきです。すべてのオンライン・対面会議における国連の6言語での通訳、およびすべての文書の翻訳がこれまで以上に必要とされています。これらの問題に取り組まなければ、私たち全員に影響を及ぼす問題に関する議論を、残念ながら特権を持つ少数の人々に委ねてしまうことになります。

ポスト 2020 GBF の交渉は、市民社会、IPLC、小規模生産者からの包括的で十分な参加を伴う政府代表団主導のプロセスであり続けなければなりません。これらの交渉は、時間的制約があると主張している OEWG の共同議長と事務局のみが主導するプロセスに陥ってはなりません。

ピアレビュープロセスにおける現在の流れに関する懸念

現在進行中の SBSTTA24 文書のピアレビュープロセスに関して、ゴール、マイルストーンおよびターゲット自体がまだ締約国によって合意され、優先付けされていない状態のまま、先にゴールとターゲットの構成要素、モニタリング要素、指標およびベースラインデータについての議論を行うという手順に対し、OEWG 共同議長および SBSTTA 議長からの説明にもかかわらず、わたしたちは未だ深い懸念を抱いています。

ゴールとターゲットの構成要素、モニタリング要素、指標、ベースラインデータを最初に議論するという事は、ゴール、マイルストーン、ターゲットが事前に判断され、決定されてしまう危険性をはらんでいます。このような手順では、SBSTTA24 がその使命にしたがって実行する最新のゴールおよびターゲットの適切な科学的・技術的レビューを妨げることは避けられず、さらに悪いことに、締約国がゴール、マイルストーン、ターゲットを適切に交渉する余地をほとんど残さないこととなります。

さらに、ゴールとターゲットは OEWG2 以降更新されています。締約国は、自分たちの意見が適切に反映されているかを慎重に検討する必要があります。OEWG2 から SBSTTA へ託されたことの中には、更新されたゴールとターゲットの科学的・技術的レビューが含まれていました。私たちは、この SBSTTA の任務が尊重されるよう強く求めます。

最新のゴールとターゲットの基準点は、パンデミック以前の世界のままです。現在、人類が直面している抜本的なシステム改革について緊急の必要性が記されていないことに私たちは深い懸念を抱いています。私たちは特に、生物多様性の保全とその持続可能な利用の中心である女性、環境保護活動家、IPLCs、小規模生産者の役割と権利が疎外されていることに困惑しています。

新しい現実と現在のプロセスの欠陥に対処するために、方向修正の必要は、これまで以上に緊急性が高いものです。

(文責 国連生物多様性の 10 年市民ネットワーク代表 坂田昌子)

Women's Caucus

CDB Alliance
www.cbd-alliance.org

Global Youth Biodiversity Network
www.gybn.org